

常盤ときめき隊

地域の主産業である農業。その農業の新たな可能性を探るべく、地域の若手農業者を中心に結成した『常盤ときめき隊』。

県立農業短大との連携を通じ、ときめき隊は地域に何をもたらそうとしているのでしょうか。

常盤ときめき隊とは

自然を生かした地域作りを目標に、平成15年に結成した常盤の里づくり協議会では、テーマに沿って5つの部会を構成しています。

部会のひとつである産業部会の中では、常盤地区の主産業である農業の振興を図るため『常盤ときめき隊』を結

農業短大との連携で地域の新たな可能性を模索

成し、主に農産物・加工品の直販、地産地消、グリーンツーリズムの研究などについての話し合いを行っています。

新しいことに次々挑戦

『常盤ときめき隊』では、秋田県立大学短期大学の協力を得ながら、15年にダチヨウウの飼育とオーニソガラム（ユリ科の花）、ブルーベリーの栽培を始めました。

ダチヨウウの卵は、直径約15^{mm}、ずつしりと重く、鶏卵の何十倍もあります。食材としての可能性は、まだまだ未知であり、食肉のほか、卵や卵の殻、骨などの活用方法を今後検討していく予定です。

オーニソガラムの別名は『子宝草』。今年は、まず花を知ってもらおうと、

市内の結婚式場で、新婚カップルに無料でプレゼントしよう企画しています。

減農薬天日乾燥米にも挑戦し、試験的に行った東京での直接販売では、持参した500^{kg}すべてを完売しました。

ほかにも地域内で朝市をやってみよ

常盤の里づくり協議会

うとの話もあるなど、『常盤ときめき隊』の夢はどんどん広がっています。始めたころは、抵抗や不安があったと言いますが、今では隊員のみなさんは、自分の取り組みについていきいきと話してくれます。

住民の力と外部の力

両方の力で地域を活性化

常盤地区では、昨年1年間、短大と一緒に、地域に住む親子を対象に、ブルーベリーの植え替えや田植え体験、生き物探索、ジャム作り、稲刈り体験を通じて、親子のふれあいや地域とのふれあいを持つとうと「親子体験教室」を開催しました。

最初は、子供たちのためにと参加した保護者のみなさんが、最後には常盤にも宝物がたくさんあると感じるまで

になりました。

地域にどんな力が眠っているのか、この地域にはどんな資源があるのかを考え、それを自分たちで活かそうとすることで、地域の可能性はどこまでも広がっていきます。



常盤ときめき隊 隊長 大倉均さん

『常盤ときめき隊』は、主に常盤地区の若い世代の農業者で構成されています。

ときめき隊の活動を始めて、これまで地域に埋もれていた人材が、地域や農業について前向きに話し合いをする機会ができました。

話し合いを重ねるうちに、みんなの心がひとつになってきていることや、常盤を今以上に良くしようという気持ちが少しずつ見えてきたと感じており、大変うれしく思っています。

新しいことに挑戦する気持ちを忘れずに、今後はときめき隊の隊員をさらに増やし、地域の将来のために何かの形を残せる活動ができればと考えています。